

令和元年5月16日現在

機関番号：20101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K20716

研究課題名(和文) 退院調整看護師と病棟看護師の思考過程に着眼した連携・協働による退院支援のあり方

研究課題名(英文) Discharge planning for cooperation and collaboration of ward and discharge planning nurses

研究代表者

中村 円(Nakamura, Madoka)

札幌医科大学・保健医療学部・助手

研究者番号：10737505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、病棟看護師と退院調整看護師の退院に伴う意思決定支援に関する、それぞれの看護師の役割認識を明らかにすることを目的とし、病棟看護師7名、退院調整看護師6名の計13名に面接調査を実施し、質的記述的に分析した。病棟看護師の自己の役割認識は6カテゴリー、退院調整看護師に期待する役割認識は3カテゴリーに集約された。また、退院調整看護師の自己の役割認識は6カテゴリー、病棟看護師に期待する役割認識は4カテゴリーに集約された。これらの結果から、病棟看護師と退院調整看護師は患者の療養生活と密接に関わる看護職としての共通性を認識しながらも、相互の特性を活かし、補完し合う役割を発揮する必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、病棟看護師と退院調整看護師という密接な連携・協働体制が必要な看護職は、それぞれの特性を発揮し、補完し合いながら患者・家族の退院に伴う意思決定支援を担う役割を相互に認識していることが明らかとなった。このことは、わが国が推進する地域包括ケアシステムの実現に向けて、患者・家族が安心して医療機関から退院し、次の療養場所へ移行するための支援を担う看護職の人材育成や支援の質評価のための有益な資料となるといえる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine awareness of the roles of hospital ward and discharge planning nurses in supporting patients' decision making to be discharged from hospital. There was a total of 13 participants in this study, including 7 ward nurses and 6 discharge planning nurses. The obtained data were qualitatively analyzed. Ward nurses were aware of their own role of "ascertaining and respecting the intentions of patients and their families" and their expectations of discharge planning nurses for "understanding the situation from a continuous perspective". Discharge planning nurses were aware of their own role of "coordination among a broad range of stakeholders" and their expectations of ward nurses for "clarifying the stance and judgment of ward nurses". Our findings suggest that role engagements for each specialized nursing type should be promoted, even though these staff share a common awareness of their responsibility to be closely involved in recuperation of their patients.

研究分野：看護学

キーワード：意思決定支援 退院支援 退院調整看護師 病棟看護師 役割認識 看護

1. 研究開始当初の背景

在院日数の短縮が加速する中、次の療養場所への円滑な移行に向けた退院支援の重要性が高まっている。中でも特定機能病院に入院する患者・家族は、高度な医療や介護を抱えた状態で次の療養に関する意思決定が必要であり、看護師の関わりが退院支援の質を左右するといえる。

2008年の診療報酬改定による退院調整加算の新設以降、退院調整に関する部門の看護師(以下、退院調整看護師)に対する期待は大きくなっている。しかし、退院調整看護師の役割には明確な定義がなく、ガイドラインの作成および標準化の必要性が指摘されている(千葉,2005)。また病棟看護師は、患者と家族が納得して次の療養生活へ移行するために、入院早期から意識的に退院支援を行う必要がある。しかし、病棟看護師は退院支援における自己の役割認識が十分でなく、退院調整看護師に依存する傾向にある(小川,2011)。

退院支援は目標設定に向けた意思決定支援と、入院目標を達成するための看護過程の展開、必要な資源をリンクするためのケアマネジメントを合わせて実行するプロセスである(永田,2015)。中でも意思決定のプロセスでは、誰が決定するかということだけでなく、どのように決定するかが課題である(吉武,2007)。患者・家族が退院後の療養に関して、自ら選択し、決定したと思える意思決定を行うためには、退院調整看護師と病棟看護師が連携・協働のもとで必要な支援を確実に行うことが重要である。しかし、退院調整看護師と病棟看護師のどちらが、どのような支援を行っているのか、相互の役割をどのように認識し、退院支援を実践しようとしているのかは明らかになっていない。

本研究では退院調整看護師と病棟看護師の退院支援における相互役割の認識を明らかにすることにより、それぞれの能力を発揮した望ましい実践のあり方に関する示唆を得たい。このことは、連携・協働のもと、患者と家族が納得できる質の高い退院支援を目指すことにつながると思われる。

2. 研究の目的

本研究は、病棟看護師と退院調整看護師の退院に伴う意思決定支援に関する、それぞれの看護師の役割認識を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の2つの研究を実施した。

研究1：退院支援を担う看護師の役割に関する文献レビュー

研究2：退院に伴う意思決定支援に対する病棟看護師と退院調整看護師の役割認識

研究1

1) 文献の抽出方法：

医学中央雑誌 Web版を用いて「退院支援 OR 退院調整」AND「看護」AND「役割」をキーワードに「原著論文」を条件として検索を行った。発行年の期間の限定はしなかった。収集された554文献について、タイトルから入院形態の異なる精神疾患患者の退院支援に関する文献、商業雑誌・病院紀要等を除外した。さらに抄録から文献レビュー、看護師の役割に言及していない文献を除外し、25文献を抽出した。25文献を精読し、看護師の役割に言及している15文献を分析対象とした。

2) 分析方法：

15文献を精読し、本研究の目的および用語の定義と照合した上で看護師の役割として述べられている内容を抽出した。それぞれの論文で述べられている看護師の役割は、可能な限り抽象度が同程度の内容を抜き出し、抽象度が高い内容については論文を精読し、意味内容を損なわないように注意しながら補足した。抽出した内容で意味内容の類似しているものを集め、質的帰納的に分析した。

研究2

1) 研究デザイン：質的記述的研究デザイン

2) 研究対象：

500床以上の入院病床を有する急性期病院の神経内科病棟に配属されている病棟看護師7名、退院調整部署に専従で勤務する退院調整看護師6名の計13名を対象とした。

3) 調査方法：

独自に作成した模擬事例を用いた面接調査法とした。調査内容は、対象者が検討した模擬事例に対する看護援助の内容と自己の役割、他者に期待する役割について、研究者が作成したインタビューガイドを用いて半構造化面接を行った。面接内容は対象者の同意を得てICレコーダーに録音した。

4) 分析方法：

録音した内容を逐語録に書き起こしたものをデータとし、質的記述的に分析した。

得られた逐語録を精読し、意味内容を損なわないよう配慮しながら「退院に伴う意思決定支援に関する役割認識」に関連する記述を抜粋して簡潔な一文で表現し、意味内容が類似しているものを集めて、コードとした。コードは病棟看護師、退院調整看護師ごとに類似性に基づき集約する過程を繰り返し、サブカテゴリー、カテゴリーの順に3段階で抽象度を上げた。

なお、分析過程においては質的研究の経験が豊富な研究者からのスーパーバイズを受け、繰り返し検討を行った。

4. 研究成果

研究1

対象文献より 108 項目の看護師の役割が抽出された。108 項目の看護師の役割は、30 サブカテゴリーから、7 カテゴリーに分類された。

【退院後も安全かつ安心して療養生活を送るための関わり】

在宅療養に必要な援助技術の指導 や 退院後も安心して療養できるような環境の調整を含む 6 サブカテゴリーから構成され、退院後も継続する患者・家族の療養生活を支持する役割が示された。

【退院支援の必要性の判断と支援の方向性の検討】

退院支援を進めるためのスクリーニングと問題の明確化 や 退院後を見据えた予測を基盤とした支援の方向性の検討 を含む 3 サブカテゴリーから構成され、患者・家族の状況から必要な支援を打ち出す役割が示された。

【患者・家族の意思や希望の尊重と実現に向けた関わり】

患者・家族の意思や希望の尊重 や 患者・家族の意思の実現 を含む 5 サブカテゴリーから構成され、患者・家族の意思決定を尊重し、実現に向けて具体的に行動する役割が示された。

【患者の療養生活を支える家族に焦点をあてた支援】

家族の負担軽減に向けたサポート 家族の日常生活を維持するための支援 を含む 4 サブカテゴリーから構成され、患者を支える家族に焦点を置いた支援が役割として示された。

【退院支援が円滑に進むための体制の整備と調整】

多職種・他機関と連携した支援体制の整備 円滑な退院支援進行のためのコーディネートを含む 4 サブカテゴリーから構成され、院内外の関係者間の調整機能が役割として示された。

【患者・家族と院内外の医療者をつなぐ関わり】

患者・家族の代弁者となり、医療者へ意見をつなぐ 患者・家族に関わるスタッフ間の情報をつなぐ を含む 5 サブカテゴリーから構成され、関係者間の橋渡しとしての役割が示された。

【看護師の退院支援の実践能力を向上させるための教育支援】

退院支援に関する看護職者の知識を高める 看護師の退院支援への取り組みに対する意識を高める を含む 3 サブカテゴリーから構成され、看護職者の実践能力向上に向けた教育的役割が示された。

研究1の結果からは、退院支援を担う看護師の役割について、看護師の基本的な役割である患者の安全を守り、安楽な療養生活を送るための支援に加えて、退院後に継続する患者・家族の生活を見据え、家族に焦点を当てた支援が役割として認識されていた。慣れない医療処置や介護を担う家族の負担や退院に伴い変化が予測される家族の日常生活を考慮し、患者の退院後も家族としての機能や関係性を維持できるよう支援する役割があると考えられた。

また、連携・協働した退院支援に向け、制度に左右されない各々の専門性を明確にし、支援に活かすことが課題であることが明らかとなった。退院支援を担う看護師が相互の役割の理解を深めるとともに、連携・協働体制の構築のためには各々の専門性や強みを明らかにする研究の必要性が示唆された。

研究2

1) 研究対象者の概要

対象者の概要は表1に示した。

	病棟看護師		退院調整看護師	
平均年齢	40.6 歳		39.2 歳	
看護師経験年数	18.9 年		15.2 年	
現部署での経験年数	8.93 年		4.3 年	
看護基礎教育課程	3年課程養成所	5名	3年課程養成所	3名
	4年生大学	2名	4年生大学	3名

2) 病棟看護師の分析結果

病棟看護師7名の個別分析で抽出された211コードは、27のサブカテゴリーから9のカテゴリーに集約された。各カテゴリーの内容について、文中の【】はカテゴリーを、<>はサブカテゴリーを示す。

(1) 病棟看護師の自己の役割認識

病棟看護師の自己の役割認識は【患者・家族の意向の把握と尊重】【患者・家族の療養生活を整える働きかけ】【患者・家族をとりまく医療チームにおける調整的機能】【病棟看護師としての考えや判断の提示】【役割区分できない同職種同士の関係性の構築】【病棟業務を優

先しつつ担う退院支援の中心的役割】の6カテゴリーであった。

(2) 病棟看護師が退院調整看護師に期待する役割認識

病棟看護師が退院調整看護師に期待する役割認識は【患者・家族との直接的な援助関係の構築】【入院中に限定しない継続的な視点からの状況把握】【病棟看護師に対する教育的支援】の3カテゴリーであった。

(3) 病棟看護師の役割認識の特徴

病棟看護師の自己の役割として認識されていた6カテゴリーから、病棟看護師は患者・家族の意向を踏まえ、退院後の生活を見据えた療養方法の検討を行うことを自己の役割として認識していると考えられた。また、看護職者としてのあり方として、医療チームの中心となり患者・家族と医療者をつなぐことや、同職種である退院調整看護師との関係性を構築すること、医師や退院調整看護師とは異なる立場で自らの判断や考えを提示することを自己の役割として認識していた。これらのことから、病棟看護師は患者の退院に伴う意思決定支援における独立した役割認識を持っていると推察され、退院調整看護師に依存的とされていた先行研究とは異なる結果であることが明らかとなった。

病棟看護師が退院調整看護師に期待する役割として認識されていた3カテゴリーから、病棟看護師は退院調整看護師に患者・家族と直接的な関わりを持つとともに、退院後の療養生活に向けた具体的な調整を行い、患者の状況を継続的に把握することを期待していた。また、退院調整看護師の専門性を活用した病棟看護師への教育支援や円滑に連携するための助言を期待していることから、病棟看護師が自身の実践能力向上や退院調整看護師と協働する姿勢を求めていると考えられた。このことから、病棟看護師の退院支援への意識が向上していることが推察された。

2) 退院調整看護師の分析結果

退院調整看護師6名の個別分析で抽出された260コードは、44のサブカテゴリーから12のカテゴリーに集約された。各カテゴリーの内容について、文中の【】はカテゴリーを、<>はサブカテゴリーを示す。

(1) 退院調整看護師の自己の役割認識

退院調整看護師の自己の役割認識は【患者・家族の意思決定を支持できる能力の具有】【広範な対象をつなぐ調整的機能】【病棟看護師と退院調整看護師からなる看護チームによるアプローチの推進】【患者・家族の療養生活全体に関する俯瞰的視点からの介入】【病棟看護師を中心とした医療者への教育的支援】【不明確な立場である退院調整看護師の専門職としての地位の形成】の6カテゴリーであった。

(2) 退院調整看護師が病棟看護師に期待する役割認識

退院調整看護師が病棟看護師に期待する役割認識は【病棟看護師の支援の質向上にむけた発展的能力の獲得】【日常的な看護ケアと退院支援との関連の理解】【患者・家族の自己決定を後押しする働きかけ】【病棟看護師独自の姿勢や判断の提示】の4カテゴリーであった。

(3) 退院調整看護師がどちらの役割とも言及しない認識

退院調整看護師の分析結果からは、退院調整看護師の自己の役割とも病棟看護師に期待する役割とも言及しない認識が抽出され、【患者・家族双方の意向の支持】【患者・家族の状況に即した療養生活の調整】の2カテゴリーに集約された。

(4) 退院調整看護師の役割認識の特徴

退院調整看護師の自己の役割として認識されていた6カテゴリーから、退院調整看護師は、患者・家族の意思決定を支持し、ニーズに対応できる能力を有していることや、医療者に対する教育を担う役割を認識しており、退院支援を専門とする看護師としての役割を自覚していると考えられた。また、これまでの経験や知識を活用し、院内外の多職種や同職種である病棟看護師と連携・協働してチーム医療の推進を図ることを自己の役割として認識していると考えられた。このことから、退院調整看護師は退院支援の専門職として、患者・家族が望む生活を具現化するために院内外や地域と連携した支援を担うことを自己の役割として認識していると考えられた。

また、退院調整看護師が病棟看護師に期待する役割として認識されていた4カテゴリーから、病棟看護師には患者・家族の最も身近な存在として意思決定を支援する中心的役割を担う意識を高く持ち、日々の実践と退院支援を関連させて患者・家族を支援する役割を期待していると考えられた。さらに、退院支援における実践能力を向上させ、医師主導ではなく病棟看護師が独自の判断を持つことを期待していることから、病棟看護師が退院支援を担うことに対して高い期待を持っていることが推察された。

退院調整看護師がどちらの看護職の役割であるとも言及しなかった役割認識の2カテゴリーからは、退院に伴う意思決定支援において患者の意向を把握し、退院後の療養生活が持続可能なものとなるように調整することは、どの立場の看護職であっても同じように担うべき役割であると認識しており、役割の区分についての言及はしなかったと考えられた。これらのことから、患者の意向を把握し退院後の療養生活を整えることは、退院に伴う意思決定支援に携わる看護職者としての基盤となる役割であることが推察された。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Nakamura M (2019): Advance Care Planning in Older Adults: A Literature Review. Open Journal of Nursing 9(1), 14-23

DOI: 10.4236/ojn.2019.91002

(査読あり)

中村円, 大日向輝美 (2018): 退院支援を担う看護師の役割に関する国内文献の検討. 札幌保健科学雑誌 7, 55-59

DOI : 10.15114/sjhs.7.55

(査読あり)

〔学会発表〕(計 3 件)

Nakamura M (2019): Literature Review of Readiness for Advance Care Planning. The 22th East Asian Forum Of Nursing Scholars, 2019 年 1 月, シンガポール

中村円: 退院に伴う意思決定支援に対する病棟看護師と退院調整看護師の役割認識. 第 44 回日本看護研究学会学術集会, 2018 年 8 月, 熊本

Nakamura M: Literature Review of the Role of Nurses in Discharge Support. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2017 年 3 月, 香港

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号 (8 桁):

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。